Volt 2 Max

Volt 2 Max ハードウェアマニュアル



本記事には、Universal Audio Volt 2 Maxハードウェアのコントロールおよび接続に関するすべての操作手順が記載されています。

はじめに
Voltクイックスタート
Voltの使用
Volt 2 Maxハードウェアの説明
Voltを工場出荷時の設定にリセットする
Volt 2 Maxの仕様
注意事項

はじめに

Volt 2 Maxは、2基のトーン・シェイピング・プリアンプ、鮮やかな視覚的フィードバックを備えたスマートディスプレイ、そしてMaxダイナミクス・プロセッシングを搭載した次世代のデスクトップUSBオーディオインターフェイスです。これらを組み合わせることで、プロスタジオの豊かで充実したサウンドを最小限のスペースに凝縮しています。

伝説的なApolloインターフェイスを手掛けたのと同じUniversal Audioのチームによって開発されたVolt Maxは、ボタンを押すだけでスタジオマイクプリアンプのトーンとクラシックなコンプレッションを提供します。本格的な制作作業に入る際には、受賞歴のあるUADプラグインの完璧に調整されたスイートとLUNA DAWをご利用いただけます。

主な利点

- **トーン・シェイピング・プリアンプ。**単なるデモ音源にとどまらない、レコード作品のような豊かなキャラクターを手に入れましょう。

- **Maxプロセッシング。**ボーカル、ギター、ベース向けに調整されたクラシックなコンプレッサー・プリセットを使用して録音できます。
- **フル32ビットオーディオ。**伝説的なUAクオリティにより、パフォーマンスを驚くほど詳細に聴くことができます。
- **マイク、インストゥルメント、その他。**ボーカルとインストゥルメントの同時録音、MIDI経由でのインストゥルメント接続、ADAT経由での入力追加が可能です。
- **スマートディスプレイ。**明るい視覚的フィードバックにより、チャンネルの選択やレベルの設定を素早く行えます。
- **Auto-Gainおよびクリッププロテクション。**信号のピークでテイクが台無しになる心配はもうありません。
- **モバイル**対応。USBバスパワーによりどこでも録音できます。外部電源は必要ありません。*
- **プレミアムUADソフトウェア。**プロが愛用するEQ、コンプレッサー、シンセサイザー、ギターアンプに加え、数々の賞を受賞しているLUNA DAWをご利用いただけます。

機能

- プロフェッショナルな32ビット／192 kHzオーディオ・コンバージョンを備えた、10イン／4アウトのデスクトップUSBオーディオインターフェイス
- 入力段でクラシックなアナログ・マイクプリアンプの豊かなサウンドを実現する、60 dBのゲインと3つの倍音キャラクター・モード（Warmth、Focus、Shine）を備えた2基のトーンシェイピング・プリアンプ
- **Maxプロセッシング** — LA-2Aや1176などの名機をモデリングした、ボーカル、ギター、ベース向けの6つの音楽的なプリセットを備えたオンボード・リアルタイム・コンプレッション
- **Tone**と**Max**の組み合わせによって得られる18種類以上のキャラクター（すべて完全にノイズフリー）
- 2系統のマイク／ライン入力、およびフロントパネルの2系統のHi-Zインストゥルメント入力
- スタジオでのスムーズなコミュニケーションを実現する内蔵トークバックマイク
- 最大8チャンネルのデジタル拡張を可能にするADATまたはS/PDIFオプティカル入力、およびMIDI In / Out
- 周辺機器の接続や外部MIDIコントローラーへの電源供給が可能なオンボードUSBハブ
- ゲインリダクションのメーター表示をはじめ、一目でわかる明るい視覚的フィードバックを提供するフルカラーのスマートディスプレイ
- 常に完璧な録音レベルを実現するAuto-Gainおよびクリッププロテクション
- モニタリングや共同作業に最適な、スタジオ品質の2系統のヘッドフォン出力（1系統の共有キューミックス付き）
- セッションのリコールや低レイテンシーのキューミックスをはじめとする、UAD Consoleアプリおよび**LUNA** DAWとの完全な統合
- ポッドキャスト、ストリーミング、コンテンツ制作に最適な内蔵ループバック

- チャンネルごとに独立したコンデンサーマイク用の48Vファンタム電源
- Mac、Windows、iPad、iPhone*で簡単にセットアップできる、USBバスパワー駆動およびクラスコンプライアント対応
- 長年の使用に耐える、スタイリッシュで堅牢な構造

**Windowsシステムでは、UA Connectアプリで提供されるASIOドライバーが必要です。バスパワーの要件はモデルやデバイスによって異なります。Lightningデバイスには、Apple Lightning - USBカメラアダプタが必要です。*

Volt クイックスタート

まず、Voltの登録、アップデート、バンドルソフトウェアおよびプラグインのインストールを管理するためのUniversal Audioアプリ、UA Connectをインストールしてください。初めてVoltを接続した際には、UA Connectに用意されたオンボーディングチュートリアルが新しいハードウェアのセットアップをサポートします。

手動でセットアップを始める場合は、本セクションの指示とリファレンスに従ってください。

Voltのドキュメントについて

- ハードウェアのセットアップおよび操作手順については、本マニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアの設定および操作手順については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。
- UA ConnectにVoltを登録し、付属のソフトウェアを入手する方法については、「Voltインターフェイスのセットアップ方法」を参照してください。

システム要件

Voltのシステム要件については、こちらをご覧ください。

はじめに

セットアップを始めるには、以下の手順に従ってください。

ハードウェアのインストール

1. Voltを平らな場所に置きます。
2. VoltのHOSTポートをコンピューターのUSB 2.0以降のポートに接続します。
   VoltにはUSB-C - USB-Cケーブルが同梱されています。

ソフトウェアのインストール

1. uaudio.com/volt/start からUA Connectアプリをダウンロードし、インストールします。

2. UA Connectを起動し、アプリ内の指示に従ってVoltハードウェアの登録とセットアップを行ってください。
3. ファームウェアのアップデートが利用可能な場合は、インストールしてください。
4. UA ConnectからUAD Consoleアプリをダウンロードしてインストールしてください。

注意：Windows環境で最適なパフォーマンスを得るには、UA Connect経由でVoltドライバーをインストールしてください。MacおよびiOS/iPadではドライバーは不要です。

Voltの使い方

Voltの機能の使い方については、本セクションの概要を参照してください。詳細については、ハードウェアの説明セクションに記載されています。

Voltの接続

モニタースピーカー、ヘッドフォン、および入力機器をVoltに接続してください。詳細については、「Voltの接続について」を参照してください。

コントロールの概要

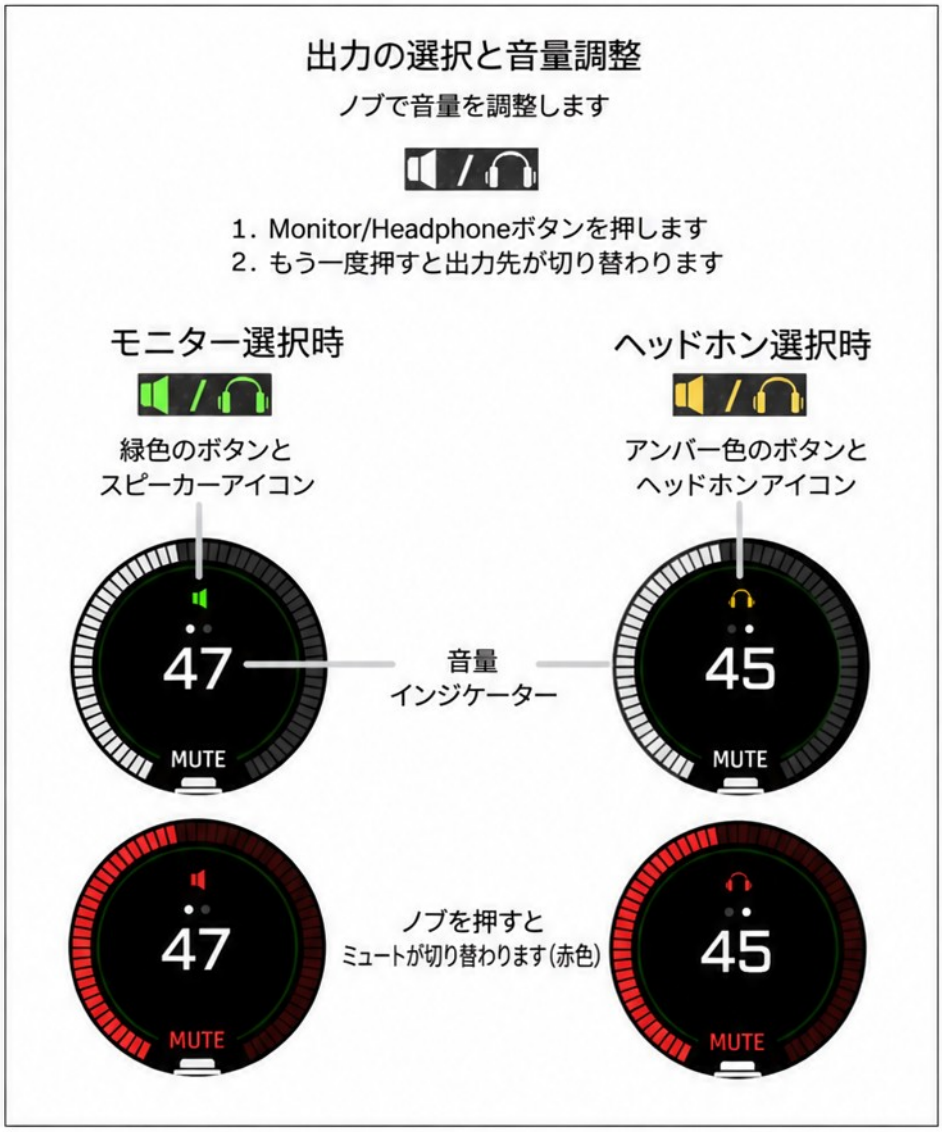
Voltのトップパネルには、10個のプッシュボタンと、押し込み操作が可能な大きなノブの2種類のコントロールがあります。

各ボタンには専用の機能があり、アクティブな状態はラベルの色で示されます。ノブでは（その他の機能に加えて）、モニターやヘッドフォンがアクティブな場合は出力音量やミュートを、プリアンプ入力が選択されている場合はゲインやチャンネルリンクを調整します。ディスプレイには、現在の選択に応じた入出力情報が表示されます。

ヒント：各コントロールは、Volt Gen 2、Volt Max、およびVolt 876ハードウェアのコンパニオンアプリであるUAD Consoleアプリでも調整できます。

出力音量の選択と調整

Voltのモニター出力とヘッドフォン出力の音量は個別に調整できます。出力音量を調整するには、まずMonitor/Headphoneボタンで出力を選択し、ノブで音量を調整します。

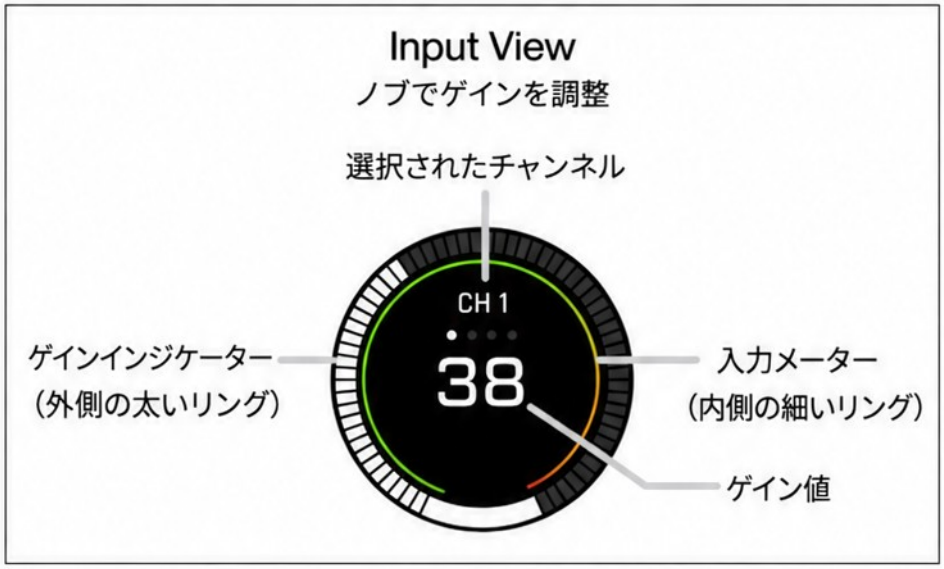


モニターモードの概要

- モニター出力とヘッドホン出力を切り替えるには、Monitor/Headphone ボタンを押してから、ノブを回して選択した出力の音量を調整します。
- 現在の選択状態は、ボタンのラベルの色とディスプレイで示されます。モニターが選択されている場合、ボタンのラベルとスピーカーアイコンは緑色になります。ヘッドホンが選択されている場合、ボタンのラベルとヘッドホンアイコンはアンバー色になります。
- ノブを押すと、出力のミュートが切り替わります。ミュート中は、外側のボリュームリングが赤色に点灯します。
- ヘッドホン／モニターモードがアクティブな場合、INPUT、DIM、TALK、ALTを除くすべてのボタンのラベルが暗くなります。

入力の選択とプリアンプゲインの調整

Voltは、独立したコントロールを持つ複数の入力チャンネルを備えています。チャンネルのプリアンプゲインを調整するには、まずINPUTボタンでチャンネルを選択し、ノブでゲインを調整します。入力が選択されている状態では、各ボタンでその入力チャンネルを制御します。



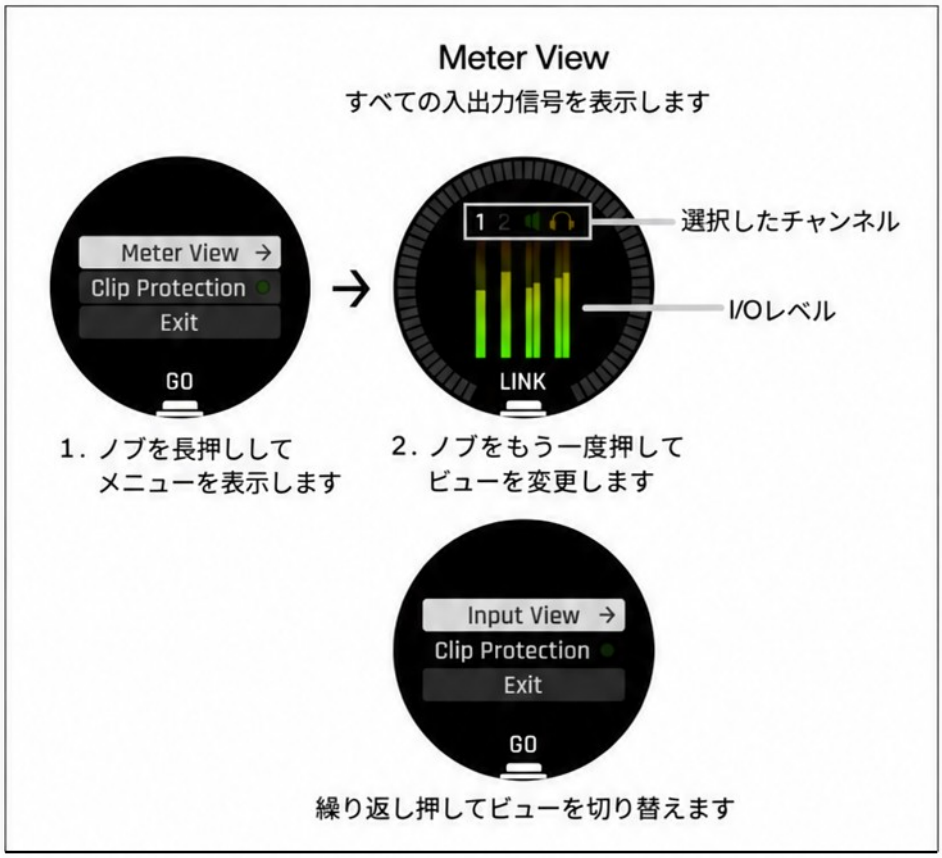
Input View

- ゲインを調整するには、ディスプレイにプリアンプのチャンネル番号が表示されるまでINPUTボタンを繰り返し押し、ノブを回します。
- 内側の細い緑色のリングは、チャンネルの入力信号レベルメーターです。入力信号のピークがレッドゾーンに達した場合は、プリアンプのゲインを下げるか、入力に接続されているデバイスの出力レベルを下げてください。
- プリアンプのゲインを自動的に設定するには、AUTOボタンを押します。

Meter Viewの選択

Meter Viewでは、すべての入力および出力の信号レベルが同時に表示されます。Meter Viewのままでも、INPUTボタンを使用して入力を切り替えたり、Monitor/Headphoneボタンを使用して出力を切り替えたりすることで、チャンネルのコントロールや出力音量を調整できます。

現在選択されている入力または出力チャンネルはメーターの上部に点灯し、チャンネルのゲインまたは音量は外側のレベルリングで示されます。



Meter view

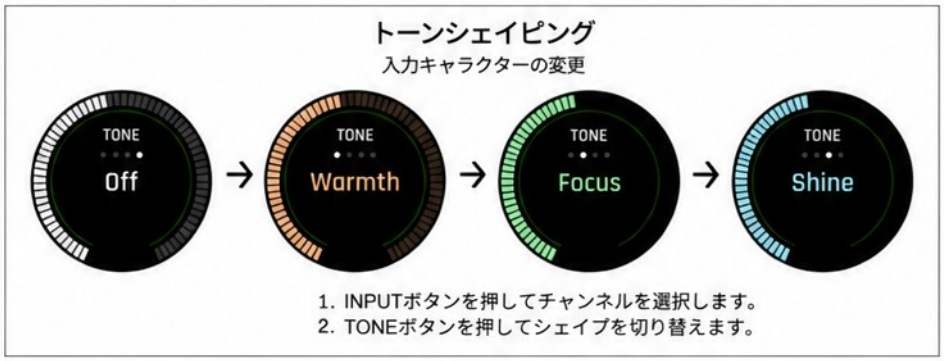
- Meter Viewに入るには、ノブを長押ししてメニューを表示し、Meter Viewがハイライトされたらノブを押します。
- Meter Viewを終了するには、ノブを長押ししてメニューを表示し、Input Viewがハイライトされたらノブを押します。

Toneの選択

Voltのすべてのアナログ入力には、クラシックなアナログマイクプリアンプのサウンドを提供する、Warmth、Focus、Shineの3つのキャラクターモードを備えたTone Shaping機能が搭載されています。各モードには、アナログハードウェアに由来するEQカーブとハーモニックサチュレーションが含まれています。ハーモニックサチュレーションは、入力のゲインを上げるにつれて増加します。

利用可能なToneを順番に切り替えるには、INPUTボタンを押して任意のチャンネルを選択し、TONEボタンを繰り返し押します。

ヒント：UAD ConsoleでToneを選択することもできます［UAD ConsoleのToneに関する記事へのリンク］。



トーンシェイピング

- ディスプレイの外周リングとTONEボタンのラベルの色は、現在の設定を反映して変化します。リングとボタンのラベルが白色の場合、トーンシェイピングはオフになっています。
- トーンリングとボタンの色は、選択した入力チャンネルに連動します。

以下の3つのトーンを利用できます：

- **OFF（白）**：トーンシェイピングなし。
- **Warmth（アンバー）**：UA 610チューブプリアンプを彷彿とさせる、ソフトなトランジェントと滑らかさを備えた、サチュレーションの効いたヴィンテージ真空管の温かみ。
- **Focus（緑）**：クラシックなアメリカ製のソリッドステート・コンソールを彷彿とさせる、フォーカスと透明感を備えたパンチのあるトランジェントで、ドラム、ギター、ベースに最適です。
- **Shine（青）**：伝統的な英国製Class-Aコンソールを彷彿とさせる、シルキーな高域を備えた、音楽的で豊かなサウンド。

Maxコンプレッションの適用

Maxコンプレッションを使用すると、手動で音量を調整することなくダイナミクスをコントロールし、パンチ、透明感、バランスを加えることができます。Maxはすべてのアナログ入力で利用できます。6種類のプリセットは特定の用途に合わせて調整されていますが、どのプリセットもあらゆるソースのサウンドを向上させます。

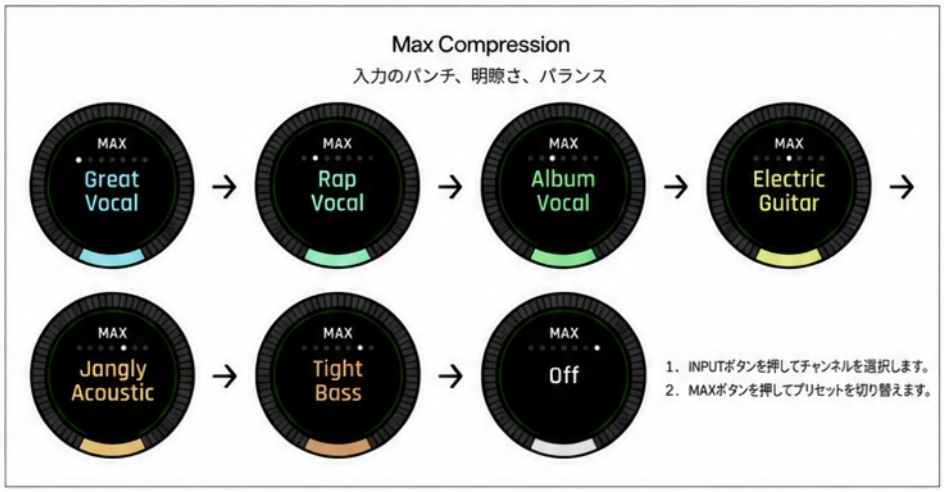
コンプレッションがアクティブな場合、スマートディスプレイにはそのチャンネルのリアルタイムのゲインリダクション・メーターが表示されます。

- 利用可能なMaxプリセットを切り替えるには、INPUTボタンを押してチャンネルを選択し、MAXボタンを繰り返し押します。
- MAXボタンのラベルとディスプレイ下部のアーク（円弧）の色は、現在のMaxプリセットを反映して変化します。
- UAD ConsoleでもMaxプリセットを選択できます。

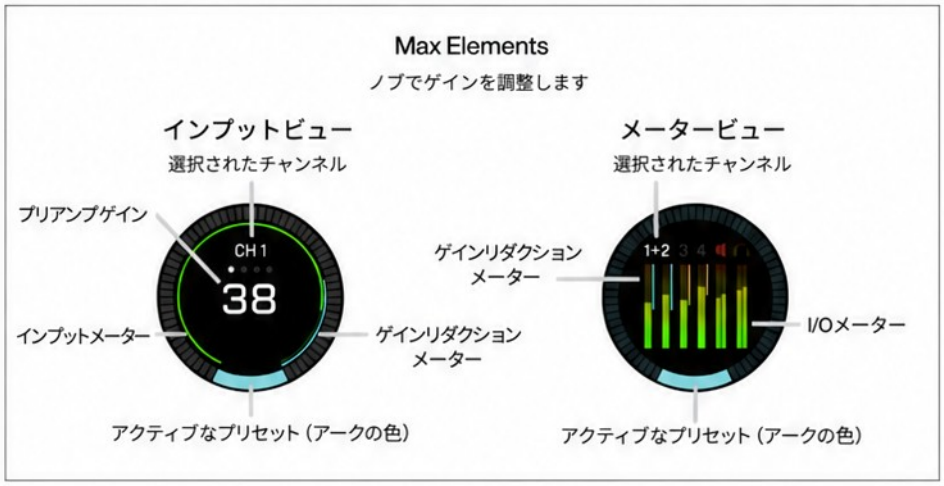
以下のMaxプリセットを利用できます：

- **Off**：コンプレッションなし。
- **Great Vocal**：スローアタック、ファーストリリース、ミディアムレシオの1176コンプレッションで、汎用性の高い優れたボーカルサウンドを実現します。

- **Rap Vocal**：アグレッシブなフォーカスを実現するリミッター設定のLA-2Aコンプレッションです。
- **Album Vocal**：ボーカル全体を滑らかにするための、スローアタック、ベリーファーストリリース、低レシオ設定の1176コンプレッションです。
- **Electric Guitar**：パンチがありつつも滑らかなエレクトリックギターサウンドのための、ミディアムアタック、ベリーファーストリリース、低レシオ設定の1176コンプレッションです。
- **Jangly Acoustic**：滑らかで温かみのあるアコースティックギターサウンドを実現するLA-2Aコンプレッションです。
- **Tight Bass**：太く丸みのあるベーストーンに合わせて調整されたVCAコンプレッションです。



Maxプリセット



Auto-Gainの使用

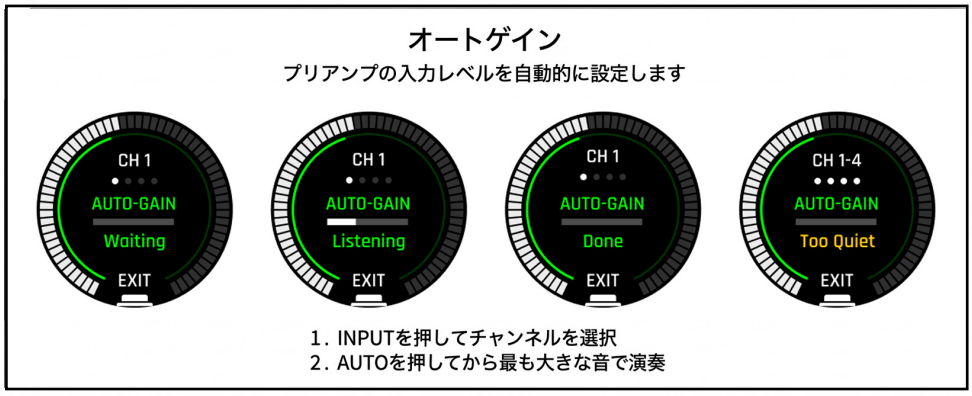
Auto-Gainは、入力信号に対して最適なプリアンプゲイン量を自動的に設定します。これにより、時間を節約し、手動で調整することなく適切なレベルで確実に録音できるようになります。

単一のプリアンプチャンネルまたはリンクされたチャンネルのゲインを自動的に設定するには：

1. INPUTボタンを押して、目的のチャンネルを選択します。

2. AUTOボタンを押します。ディスプレイにWaitingと表示されます。
3. 最大音量で少なくとも10秒間、演奏するか歌ってください。ディスプレイにListeningとプログレスバーが表示されます。

Auto-Gainが完了すると（10秒後）、レベルが設定され、ディスプレイは前の画面に戻ります。



Auto-Gainのディスプレイ表示

Auto-Gainのヒント

- すべてのプリアンプで同時にAuto-Gainを使用するには、AUTOボタンを長押しします。
- 入力信号レベルが不十分な場合、ディスプレイにToo Quietと表示されます。その場合は、より大きな声で歌うか演奏するか、入力に接続されているデバイスの出力レベルを上げてください。
- UAD ConsoleでAuto-Gainを開始し、関連する設定を調整することもできます。
- Auto-Gainは、録音に適したプリアンプのレベルを自動的に調整します。聴覚へのダメージを防ぐため、先に進む前にモニター音量が安全なレベルに設定されていることを確認してください。

ダイレクトモニタリングの使用

ダイレクトモニタリングでは、DAWを介してモニタリングする代わりに、入力信号を直接モニター出力およびヘッドフォン出力へ送ります。ダイレクトモニタリングを使用すると、レイテンシーを感じることなく、ライブ入力をリアルタイムで聴くことができます。ダイレクトモニタリングを使用しない場合、入力信号はDAWのバッファリングレイテンシーの影響を受けます。

ダイレクトモニタリングの切り替え

- 選択したチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを押します。
- すべてのチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを長押しします。

DIRECTボタンの表示は、チャンネルのDirectがオンの場合は緑色に、オフの場合は白色に点灯します。機能を切り替える際、ディスプレイにもその状態が短時間表示されます。



Directのオン／オフ

ダイレクトモニタリングを使用する理由

ダイレクトモニタリング（ハードウェアモニタリングとも呼ばれます）を使用すると、DAWを完全にバイパスし、Voltハードウェアから直接、Tone ShapingおよびMaxコンプレッションが適用された入力信号をレイテンシーなしで聴くことができます。

DirectをオフにしてDAW経由で入力信号をモニタリング（ソフトウェアモニタリング）する場合、信号はDAWを通過してからVoltのモニター出力およびヘッドフォン出力に送られます。これらの信号はDAWのI/Oバッファーを使用するため、レイテンシー（遅延）が発生します。この遅延量はバッファーサイズを大きくするほど増加します。

DAW経由でモニタリングしたくないソースを録音する場合に、ダイレクトモニタリングを使用してください。例えば、DAWのプラグイン処理は行わず、VoltのTone ShapingとMaxコンプレッションのみを適用してボーカルや楽器を録音する場合などです。

ダイレクトモニタリングに関する注意事項

- Directの音声には、入力のTone ShapingおよびMaxコンプレッション（チャンネルで有効になっている場合）が含まれます。
- Directがオンの場合、音が二重になるのを防ぐためにDAWのソフトウェアモニタリング機能を無効にしてください。音が二重になると、入力音が細く聞こえたり、「フェイズがかかった」ような音になることがあります。
- Directがオフの場合、DAWでのバッファリングや信号処理の影響により、入力音が聞こえるまでにレイテンシー（わずかな遅延）が発生することがあります。
- DAWに読み込んだプラグインで処理された入力信号を聴きたい場合は、Directをオフのままにしてください。
- Directのオン／オフ状態に関わらず、入力信号は録音のために常にDAWへ送信されます。

UAD ConsoleでのDirectの使用

- UAD Consoleでは、Directがオンのときは入力のミュートが解除され、Directがオフのときはミュートされます。
- UAD Consoleで1つ以上のチャンネルがソロになっている場合、他のチャンネルのダイレクトモニタリング信号は聞こえません。
- Directがオンのとき、UAD Consoleで入力レベル、パンニング、Cueセンドをコントロールできます。詳細については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。

入力チャンネルのリンク

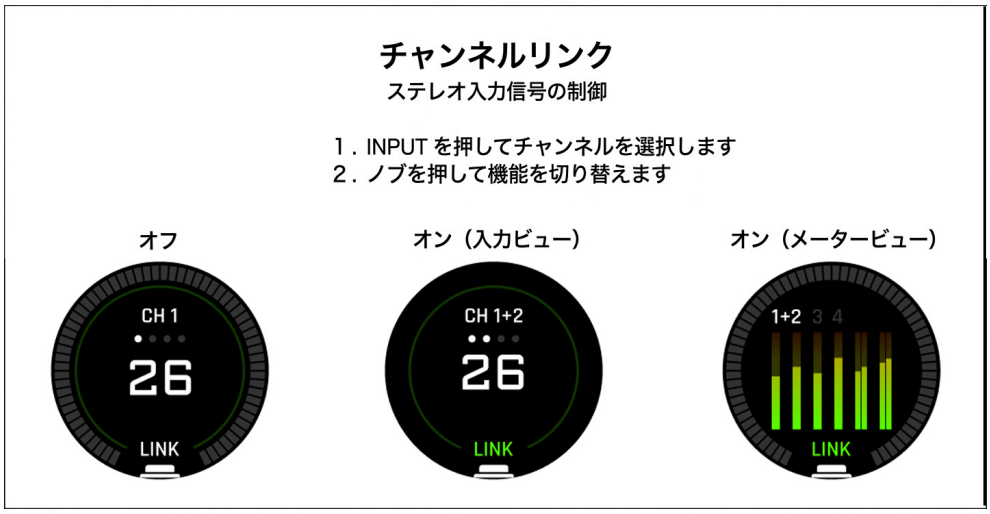
ステレオ動作用に入力チャンネルをリンクできます。入力がリンクされると、チャンネル設定は両方の入力に適用され、チャンネルペアはモニターバスで左右にパンされます。もう一度押すとリンクが解除されます。

隣接するチャンネルをリンクおよびリンク解除するには

- LINKボタンを押します。
- チャンネルのリンクを解除するには、LINKボタンをもう一度押します。

リンクに関する注意事項

- リンクできるのは隣接するチャンネルペアのみです。
- 異なる入力タイプ（例：1/4”とXLR）のチャンネルはリンクできません。互換性のないチャンネルをリンクしようとすると、INPUTラベルが赤く点滅し、ディスプレイにInput Mismatchと表示されます。
- リンクされたペアの片方のチャンネルの接続を外した場合でも、本体またはUAD Consoleでチャンネルのリンクを解除するか、異なるタイプの入力を接続するまでリンクは維持されます。



Talkbackの使用

TALKボタンは、内蔵トークバックマイクを有効にします。トークバックは通常、Cueを介して演奏者とコミュニケーションをとるために使用します。

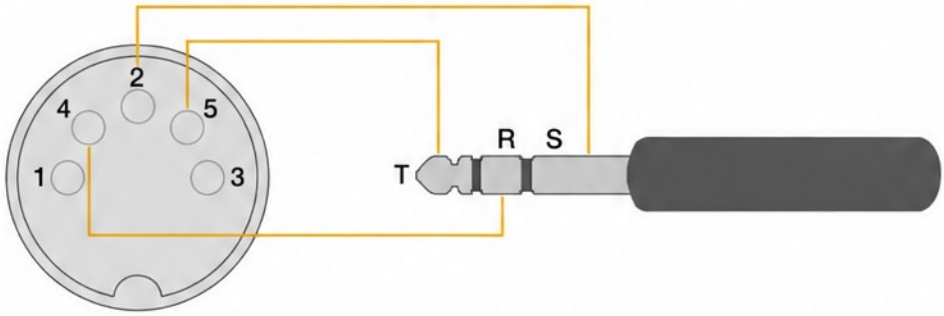
- トークバックをラッチまたは解除するには、TALKボタンを短く押して離します。
- トークバックを一時的に有効にし、ボタンを離したときに無効にするには、ボタンを0.5秒以上長押しします。
- 機能が有効な場合、TALKボタンは緑色に点灯します。

MIDIの使用

MIDI Type A 1/8”（3.5 mm）コネクターを使用して、MIDIデバイスを接続します。

MIDI接続図

MIDI Type Aは（MIDI Type Bとは異なり）固有の配線を使用します。この図は、Voltに必要なMIDI Type Aの接続を示しています。



MIDI Type A 5ピンDIN - TRS配線図

MIDIデバイスの使用

macOSでは、MIDIデバイスはオペレーティングシステムによって自動的に認識され、Voltデバイスはその名前で識別されます。Windowsシステムでは、UA Connect経由でVoltドライバーをインストールする必要があります。

オプティカル入力の使用

外部機器のデジタルオーディオ出力をこのTOSLINKオプティカル入力に接続します。

TOSLINKポートは、ADAT Lightpipeオプティカルインターフェイスまたは S/PDIFプロトコルを使用します。標準的なTOSLINKオプティカルケーブルを使用して、最大8チャンネルのADATオーディオ、または2チャンネルのS/PDIFオーディオを入力できます。

アナログ入力とは異なり、デジタル入力にはチャンネルコントロールがありません。デジタル入力の信号レベルは、Voltに接続されたデジタル機器の出力レベルを調整して設定します。デジタル入力の信号レベルは、UAD Consoleで確認できます。

注意：Voltは、ADATまたはS/PDIF形式のデジタルオーディオをサポートしています。デジタルオーディオのフォーマットは、UAD Consoleの設定から選択できます。

高いサンプルレートでは、高解像度のADAT転送を維持するために業界標準のS/MUXが使用されます。サポートされているサンプルレートは以下のとおりです：

ADAT入力チャンネル

- 44.1/48 kHz：8チャンネル
- 88.2/96 kHz：4チャンネル
- 176.4/192 kHz：2チャンネル

S/PDIF入力チャンネル

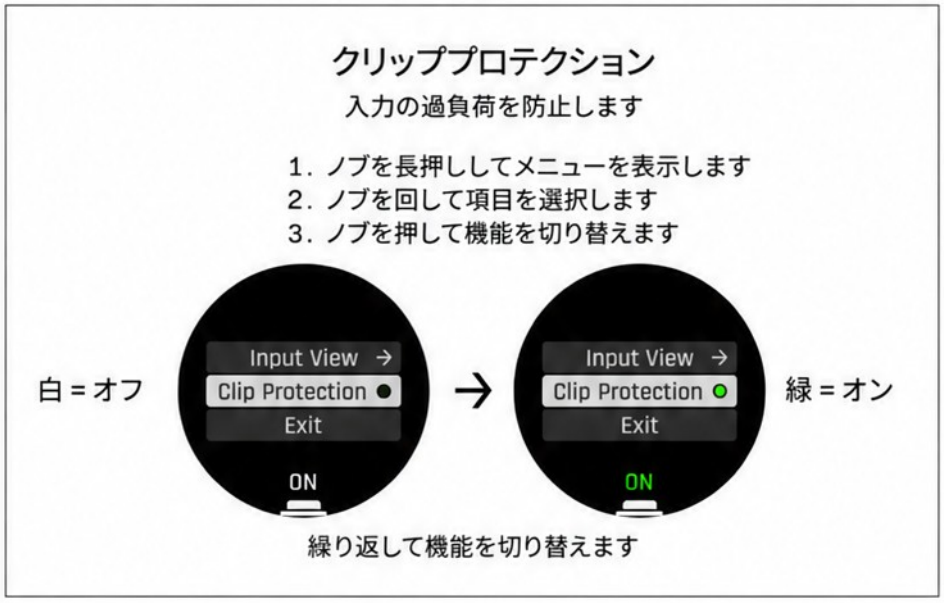
- サポートされているすべてのサンプルレートで2チャンネル

クリッププロテクションによるオーディオクリッピングの防止

クリッププロテクションは、プリアンプ入力への予期せぬ大きな信号によって録音データにクリッピング歪みが生じるのを防ぎます。クリッププロテクションはデフォルトでオンになっていますが、Voltのメニュー、またはUAD Consoleの設定から無効にすることができます。

クリッププロテクションのオン／オフの切り替え

1. メニューが表示されるまで、ノブを長押しします。
2. ノブを回してClip Protectionを選択し、ノブを押して状態を切り替えます。
3. 有効になると、メニュー項目の横に緑色の点が表示され、ONが緑色に点灯します。



Clip Protectionメニュー項目

クリッププロテクションの仕組み

Volt Maxのクリッププロテクションは、信号がアナログ／デジタルコンバーターに到達する前にハードウェアリミッターを適用し、プリアンプ入力でのクリッピングを防ぎます。

Voltの接続について

最適な結果を得るために、以下のケーブルを使用してください：

- ギターやベースをフロントパネルのインストゥルメント入力に接続する1/4”（6.35 mm）TS（チップ・スリーブ）ケーブル
- マイクをリアパネルのコンボジャック入力に接続するXLRケーブル
- キーボードやその他のラインレベルオーディオソースをリアパネルのコンボジャック入力に接続する1/4”TRS（チップ・リング・スリーブ）ケーブル
- ステレオモニタースピーカーやその他のオーディオ機器をリアパネルのモニターおよびライン出力に接続する1/4”TRSケーブル
- 1台または2台のステレオヘッドフォンをフロントパネルのヘッドフォンジャックに接続する1/4”および1/8”TRSヘッドフォンプラグ

バランス接続について

Voltのモニター／ライン出力およびリアの1/4”コンボ入力ジャックは、バランス対応機器に接続された場合にバランス接続となります。最適な結果を得るために、TRS（バランス）オーディオケーブルを使用してください。バランス対応機器は3芯配線を使用するため、干渉や電気的ノイズが低減され、長いケーブル配線でも高いオーディオ品質を保つことができます。TS（アンバランス）接続は、電気的な干渉ノイズが問題にならない短いケーブルでの接続に適しています。

Volt 2 Maxハードウェアの説明

本セクションでは、すべてのハードウェアコントロール、接続端子、およびインジケーターについて説明します。

Volt 2 Max フロントバネル



Volt 2 Max フロントパネル（コールアウト付き）

(1) インストゥルメント入力 1-2

ギター、ベース、その他のハイインピーダンス楽器をここに接続します。インストゥルメントジャックへの接続は、リアパネルのXLR/TRS 1-2コンボジャックよりも優先されます。ヒント：楽器の接続には、標準の1/4” TSインストゥルメントケーブルを使用してください。

(2) ヘッドフォン出力ジャック

ステレオヘッドフォンをこれらの出力に接続します。1/4”（6.35 mm）および1/8”（3.5 mm）のTRSヘッドフォンプラグ用に、2つのヘッドフォンジャックが用意されています。どちらのヘッドフォンジャックからも同じ信号が出力されます。ヘッドフォン出力にはCUEミックスをルーティングすることができます。詳細はUAD Consoleマニュアルを参照してください。

Volt 2 Max トップパネル



Volt 2 Max トップパネル

(3) トークバックマイク

ここには内蔵トークバックマイクが配置されています。パフォーマーとのコミュニケーションにトークバックを使用します。トークバックは、TALKボタンを押して有効にします。詳細は「トークバックの使用」を参照してください。

注意：トークバックマイクは非常にデリケートです。機器の損傷を防ぐため、マイクの穴に物を入れたり、圧縮空気を吹き付けたり、掃除機を使用したりしないでください。

(4) スマートディスプレイ

この丸いディスプレイには、選択した入力チャンネルまたは出力の情報が表示されます。

詳細については、「Voltの使用」を参照してください。

(5) TONEボタン

選択した入力チャンネルに、サチュレーションとハーモニクスを伴うアナログスタイルのTone Shapingを適用します。

- 利用可能なトーンを切り替えるには、INPUTボタンを押して任意のチャンネルを選択し、TONEボタンを繰り返し押します。
- スマートディスプレイの外側のリングとTONEボタンのラベルの色は、現在の設定を反映して変化します。リングとボタンのラベルが白色の場合、Tone Shapingはオフになっています。
- トーンリングとボタンの色は、選択した入力チャンネルに連動します。
- トーンはUAD Consoleでも選択できます。

詳細については、「トーンの選択」を参照してください。

(6) MAXボタン

選択した入力チャンネルで利用可能なMaxコンプレッサーのプリセットを切り替えます。繰り返し押すことで、6つすべてのコンプレッサー設定とOFFを順に切り替えます。

- MAXボタンのラベルとディスプレイ下部の円弧の色は、現在のMaxプリセットと一致します。
- MaxコンプレッションはUAD Consoleでも選択できます。

詳細については、「Maxコンプレッションの適用」を参照してください。

(7) 48Vボタン

選択したリアパネルのXLR入力に接続されたコンデンサーマイクに対して、+48Vファンタム電源を有効にします。ファンタム電源が印加されている間はラベルが赤色に点滅し、アクティブ時は赤色に点灯、非アクティブ時は白色に点灯します。

選択したチャンネルに1/4インチプラグが接続されている場合、ファンタム電源は無効になります（ラベルは消灯します）。

注意：マイクを接続または取り外す前に、ファンタム電源をオフにしてください。ファンタム電源により、一部のリボンマイクが損傷する恐れがあります。

(8) LINKボタン

入力チャンネル1と2をリンクしてステレオ動作させるには、このボタンを押します。チャンネルがリンクされていると、チャンネル設定が両方の入力に適用され、モニターバス内でチャンネルペアが左右にパンされます。もう一度押すとリンクが解除されます。

(9) INPUTボタン

画面に表示し、他のコントロールで調整を行うアクティブな入力チャンネルを選択します。繰り返し押すと入力が切り替わります。長押しすると、ステレオ動作用のチャンネルのリンク／リンク解除を行います。

詳細については、「入力の選択とプリアンプゲインの調整」を参照してください。

(10) AUTOボタン

選択したチャンネルのAuto-Gainレベル検出を開始します。長押しすると、すべての入力で同時にAuto-Gainを設定します。詳細については、「Auto-Gainの使用」を参照してください。

ヒント：ギターやベースのモデリングプラグインに適切なレベルを設定するには、Hi-Zインストゥルメント入力に接続された楽器のゲインを最小（0）に設定してください。最適な結果を得るため、Hi-Zインストゥルメント入力に接続された楽器のレベル設定にはAuto-Gainを使用しないでください。

(11) DIRECTボタン

選択したチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを押します。ダイレクトモニタリングでは、ToneおよびMaxプロセッシングを含むモニター入力からのオーディオが直接出力へ送られます。また、ダイレクトモニタリングにより、UAD Console内の入力チャンネルのミュートも解除されます。

詳細については、「ダイレクトモニタリングの使用」を参照してください。

(12) TALKボタン

内蔵トークバックマイクのオン／オフを切り替えます。短く押して離すとオン／オフがラッチ（固定）されます。長押しするとモメンタリーモードで使用できます（ボタンを押している間のみトークバックがオンになります）。トークバックがアクティブな場合、ラベルが緑色に点灯します。

ヒント：レコーディングセッション中にモメンタリーモード（長押し）でTALKを使用すると、誤ってトークバックをオンにしたままにすることなく、演奏者とすばやくコミュニケーションをとることができます。

(13) DIMボタン

Voltからメイン出力およびモニター出力への出力を一時的に20 dB減衰させます。押すとDIMのオン／オフが切り替わります。ラベルが緑色に点灯しているとき、DIMはアクティブです。

(14) Monitor/Headphoneボタン

ノブとディスプレイの対象となる出力を選択するには、このボタンを押します。ボタンを繰り返し押すと、モニター出力とヘッドフォン出力が切り替わります。Monitorが選択されている場合はボタンのラベルが緑色に点灯し、Headphonesが選択されている場合はアンバーに点灯します。

詳細については、出力音量の選択と調整を参照してください。

(15) メインエンコーダーノブ

このノブは、回す操作と押す操作の2つの機能を備えたコントロールで、現在選択されている機能に応じてさまざまな設定を調整します。

ノブを回して以下を調整します：

- プリアンプチャンネルが選択されている場合の入力ゲイン
- Monitor出力が選択されている場合のモニター音量
- Headphone出力が選択されている場合のヘッドフォン音量

ライン入力が選択されている場合、ノブは無効になります。

ヒント：微調整を行うにはノブをゆっくり回し、素早く調整を行うには速く回します。

ノブを押して以下を行います：

- Monitorが選択されている場合はモニター出力をミュートします
- Headphoneが選択されている場合はヘッドフォン出力をミュートします

ノブを長押しして以下を行います：

- Input/Meter Viewおよびクリッププロテクションメニューを表示します
- メニューが表示されたら、ノブを回して機能を選択します
- ノブを押して機能のオン／オフを切り替えるか、メニューを終了します

Volt 2 Maxリアパネル



Volt 2 Maxリアパネル

(16) XLR/TRSコンボ入力1-2

2つのXLR/1/4インチコンボジャックには、XLRまたは1/4インチTS/TRSプラグを接続できます。これらの入力では、Voltプリアンプ、Tone Shaping、Maxコンプレッションを使用できます。48Vファンタム電源は、XLRジャックにのみ供給されます。

- マイクはXLRケーブルで接続します。
- キーボードやその他のオーディオ機器は、1/4インチTRSまたはTSケーブルで接続します。
- コンボ入力のプリアンプゲインを調整するには、INPUTボタンでチャンネルを選択し、ノブを回します。

注意：フロントパネルのインストゥルメントジャックにケーブルが接続されているチャンネルでは、ファンタム電源が無効になります。

(17) モニターL/R出力

ステレオスピーカーシステムはモニター出力に接続します。左スピーカーをMON OUT 1/Lに、右スピーカーをMON OUT 2/Rに、1/4インチTSまたはTRSケーブルを使用して接続します。

注意：モニター出力はパワード出力ではありません。アクティブ（パワード）モニタースピーカー、または別のアンプとパッシブスピーカーの組み合わせが必要です。

モニター出力の音量を調整するには、まずMonitor/Headphoneボタンで出力を選択し、ノブを回します。

(18) MIDI入出力

標準的な1/8インチ（3.5 mm）TRS MIDI Type Aケーブルを使用して、MIDIデバイスをVoltに接続します。お使いのデバイスのMIDI OUTをVoltのMIDI INへ、デバイスのMIDI INをVoltのMIDI OUTへ接続してください。

詳細については、「MIDIの使用」を参照してください。

(19) USB-C HUBポート

その他のUSBデバイスは、このUSB 2.0拡張ポートに接続します。たとえば、MIDIコントローラーやiLok USBを接続できます。また、ADAT拡張のためにVolt 876をこのポートに接続することも可能です。なお、このポートは、ホストコンピューターへの接続やUSBからの電源供給には使用しません。

USB HUBポートは、最大0.5Aの5VDCを供給します。出力電力が不足する場合は、接続するデバイスに外部電源を供給する必要があります。

(20) USB-C HOSTポート

付属のUSB-Cケーブル、または別のデータケーブルを使用して、VoltのHOSTポートをコンピューターのUSB 2.0（またはそれ以降）のポートに接続します。コンピューター側のポートはUSB-CまたはUSB-Aのいずれにも対応しており、USB 2.0以上の任意のデータケーブルを使用できます。

iOSおよびiPadデバイスの場合は、USB-Cケーブル（USB-Cポート搭載デバイス）、またはApple Lightning - USBカメラアダプタ（Lightningポート搭載デバイス）を使用してVoltを接続します。Voltには、このポートに接続されたコンピューターからバスパワーが供給されます。

(21) USB-C 5VDC ポート

VoltがUSB HOSTポートから動作に十分なバスパワーを得られない場合は、このポートを適切な5VDC USB電源に接続してください。

注意：Voltが認識されるには、HOSTポート経由でコンピューターと接続されている必要があります。

(22) Power

このロッカースイッチを使用して、Voltの電源を入れます。

(23) Optical インプット

他の機器のデジタルオーディオ出力ポートを、このTOSLINKオプティカル入力に接続します。

TOSLINKポートは、ADAT Lightpipeオプティカルインターフェイス、またはS/PDIFプロトコルに対応しています。標準的なTOSLINKオプティカルケーブルを使用して、最大8チャンネルのADATオーディオ、または2チャンネルのS/PDIFオーディオを入力できます。

詳細については、「オプティカル入力の使用」を参照してください。

Voltを工場出荷時の状態にリセットする

Voltをデフォルト設定にリセットするには、以下の手順に従ってください。

1. Voltの電源を切ります。
2. TONEボタンと48Vボタンの両方を長押ししながら、電源を入れます。
3. すべてのボタンの上にあるバックライト付きテキストが4回点滅するのを待ってから、ボタンを離します。

Volt 2 Max 仕様

注意：すべての仕様は予告なく変更される場合があります。

システム

I/O構成

- マイク／ラインプリアンプ入力：2系統のコンボXLR/TRS

- インストゥルメント入力：1/4” TS × 2
- モニター出力：2系統
- ヘッドフォン出力：1/4”ステレオ × 1、1/8”ステレオ × 1
- USB（Type-Cコネクター）：
    - USB 2.0ホストポート × 1（バスパワー対応）
    - USB 5VDC電源ポート × 1
    - USB ハブポート × 1
- MIDI：In、Out（3.5 mm Type-A × 2）

A/D – D/A変換

- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192
- サンプルあたりのビット深度：32
- 同時A/D変換：2チャンネル
- 同時D/A変換：4チャンネル（メイン2、ステレオヘッドフォン1）

アナログI/O

マイク、ライン、インストゥルメント入力（ACカップリング）

- 利用可能なゲイン：60 dB
- Tone Shaping（チャンネルごとに選択可能）：Warmth、Focus、Shine
- Max Processing（チャンネルごとに選択可能）：Great Vocal、Rap Vocal、Album Vocal、Electric Guitar、Jangly Acoustic、Tight Bass

マイク入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.08 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：119 dB
- 全高調波歪率＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-110 dB（0.0003 %）
- 最大入力レベル：14 dBu
- 入力インピーダンス：2 kΩ
- ファンタム電源：+48V（チャンネルごとに切り替え可能）
- コネクタータイプ：XLRメス、ピン2ポジティブ

インストゥルメント入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.02 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：116 dB
- 全高調波歪率＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-108 dB（0.0004 %）
- 最大入力レベル：13 dBu
- 入力インピーダンス：1 MΩ
- コネクタータイプ：1/4” TSアンバランス

ライン入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.05 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：119 dB
- THD＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-108 dB（0.0004 %）
- 最大入力レベル：22 dBu
- 入力インピーダンス：10 kOhms
- コネクタータイプ：¼” TRSバランスまたはTSアンバランス

モニター出力（DCカップリング）

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.05 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：126 dB
- THD＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-112 dB（0.0003 %）
- 最大出力レベル：20.2 dBu
- 出力インピーダンス：200 Ohms
- コネクタータイプ：¼” TRSバランス

ステレオヘッドフォン出力（DCカップリング）

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.08 dB
- ダイナミックレンジ（300 Ohms、Aウェイト）：116 dB
- THD＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS、300 Ohms）：-103 dB（0.0007 %）
- 32 Ohms負荷時の最大出力：チャンネルあたり45 mW
- 300 Ohms負荷時の最大出力：チャンネルあたり24 mW
- コネクタータイプ：¼” TRSステレオ

デジタル入力

S/PDIF

- コネクタータイプ：Optical TOSLINK JIS F05（ADATと共有）
- フォーマット：IEC 958
- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192

ADAT

- コネクタータイプ：Optical TOSLINK JIS F05（S/PDIFと共有）
- フォーマット：ADAT Digital Lightpipe（S/MUX対応）
- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192
- 44.1 kHz、48 kHz時のチャンネル割り当て：チャンネル1～8
- 88.2 kHz、96 kHz時のチャンネル割り当て：チャンネル1～4
- 176.4 kHz、192 kHz時のチャンネル割り当て：チャンネル1～2

同期ソース

- インターナル、ADAT、S/PDIF

電気仕様

- DC入力コネクタタイプ：USB-C
- DC要件：5VDC（Hostポート経由のバスパワー駆動に対応）
- 消費電力（@5VDC）：標準 4.1 W、最大 5.7 W

環境仕様

- 周囲温度範囲：32° ～ 104° F（0° ～ 40° C）

物理仕様

寸法

- シャーシ（ノブを含む）：幅 x 奥行き x 高さ 7.5 x 4.5 x 2.1 in（18,1 x 11,5 x 5,4 cm）
- 梱包箱：幅 x 奥行き x 高さ 9.3 x 5.3 x 4.7 in（23,6 x 14,6 x 12,0 cm）

重量

- 発送重量（箱および付属品を含む）：2.8 lbs（1.3 kg）
- 重量（本体のみ）：1.3 lbs（0.6 kg）

パッケージ内容

- Volt 2 Max USBオーディオインターフェイス
- 1m USBケーブル（Type-C - Type-C）
- 重要な安全上の注意事項
- エンドユーザー使用許諾契約書

通知



重要な安全上の注意事項

1. 本安全上の注意事項および製品の取扱説明書をお読みください。
2. 本安全上の注意事項および製品の取扱説明書を保管してください。製品を第三者に譲渡する場合は、必ずすべての説明書を添付してください。
3. すべての警告に注意してください。
4. すべての指示に従ってください。
5. 本機器を水の近くで使用しないでください。

6. 本製品の清掃は、電源から切断されている場合にのみ行ってください。清掃には乾いた布のみを使用してください。
7. 通風孔を塞がないでください。製造元の指示に従って設置してください。
8. ラジエーター、ヒーター、ストーブ、または熱を発生するその他の機器（アンプを含む）などの熱源の近くに設置しないでください。
9. 本製品は、電源ユニットに記載されている種類の電源でのみ使用してください。
10. 電源コード、特にプラグ、コンセント、および機器から出ている部分が踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。
11. 製造元が指定した付属品／アクセサリーのみを使用してください。
12. 雷雨の際、または長期間使用しない場合は、本機器のプラグをコンセントから抜いてください。
13. すべての修理は資格のあるサービス担当者にご依頼ください。電源コードやプラグの破損、機器内への液体の浸入や異物の落下、雨や湿気への曝露、正常に動作しない場合、または機器を落下させた場合など、機器が何らかの損傷を受けた場合には修理が必要です。
14. **警告：**火災や感電のリスクを軽減するため、本機器を雨や湿気にさらさないでください。花瓶など液体の入った物を本機器の上に置かないでください。
15. 本機器をAC電源から完全に切断するには、電源コードのプラグをACコンセントから抜いてください。
16. 電源コードのプラグは、容易にアクセスできる状態を保ってください。
17. 製品の筐体を開けようとしないでください。お客様自身で製品を開けた場合、保証は無効となります。
18. 電源を入れる前に、製品を周囲の温度に馴染ませてください。
19. **注意：**高い信号レベルは、聴覚やスピーカーに損傷を与える可能性があります。製品の電源を入れる前に、接続されているオーディオ機器の音量を下げてください。これにより、音響フィードバックの防止にも役立ちます。
20. **使用目的：**本製品は屋内での使用を目的として設計されています。本製品は商業目的で使用することができます。該当する取扱説明書に記載されていない用途で本製品を使用することは、不適切な使用と見なされます。Universal Audioは、本製品およびその付属品／アクセサリーの不適切な使用または誤用から生じた損害について、一切の責任を負いません。本製品を使用する前に、各国の規制を遵守してください。

製造元宣言

保証

本製品には限定保証が適用されます。当該保証の最新の条件については、uaudio.com/eulaをご覧ください。



メンテナンス

- **注意：**感電のリスクを軽減するため、本体を開けないでください。

- 本製品には、ヒューズなどユーザーが交換可能な部品は含まれていません。本機は工場出荷時に内部調整されています。ユーザーによる内部の調整はできません。

修理サービス

ハードウェアに問題が発生した場合は、まずすべてのシステムセットアップ、接続、および取扱説明書を確認してください。それでも解決しない場合は、テクニカルサポートチームにお問い合わせください。
修理サービスに関する情報や、Universal Audio / UAカスタマーケアへのお問い合わせについては、help.uaadio.comにアクセスしてください。

廃棄に関する注意事項

以下の要件に準拠しています：

WEEE指令（2012/19/EU）



製品、バッテリー／充電式バッテリー（該当する場合）、および／またはパッケージに記載されているパツ印の付いた車輪付きゴミ箱の記号は、これらの製品を通常の家庭ゴミと一緒に廃棄してはならず、耐用年数が終了した際に分別して廃棄しなければならないことを示しています。パッケージの廃棄については、お住まいの国で適用される廃棄物分別の法的規制を遵守してください。

これらの製品のリサイクルに関する詳細情報は、お住まいの自治体または自治体の収集所から入手できます。廃電気電子機器、バッテリー／充電式バッテリー（該当する場合）、およびパッケージの分別収集は、再利用とリサイクルを促進し、これらの製品に含まれる可能性のある有害物質などによる悪影響を防ぐために行われます。これにより、環境と公衆衛生の保護に重要な貢献をすることができます。

適合宣言

FCC：本デバイスはFCC規則第15部に準拠しています。動作は以下の2つの条件を前提とします。(1) 本デバイスは有害な干渉を引き起こさないこと、および (2) 本デバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したあらゆる干渉を許容しなければならないこと。

CANADA：カナダICES-003クラスBに準拠しています / Conforme au reglement Canadien NMB-003 Classe B。

CE：本デバイスはテストの結果、EC電磁両立性指令2014/30/EUの制限に準拠していることが確認されています。

エンドユーザー使用許諾契約書

本ソフトウェアに関するお客様の権利は、付属のエンドユーザー使用許諾契約書に準拠します。本契約書のコピーは www.uaudio.com/eula にてご確認いただけます。

著作権および商標

© 2026 Universal Audio, Inc. All rights reserved worldwide. 「Universal Audio」の名称、UAの「ダイヤモンド」ロゴ、および「UA Volt」は、Universal Audio, Inc.の商標または登録商標です。本書に記載されているその他のすべての製品および商標は、それぞれの所有者に帰属します。

ASIOは、Steinberg Media Technologies GmbHの商標およびソフトウェアです。

免責事項

本マニュアルに含まれる情報は、予告なく変更される場合があります。Universal Audio, Inc.は、商品性および特定の目的への適合性に関する黙示の保証を含む（ただしこれらに限定されません）、本マニュアルに関するいかなる種類の保証も行いません。Universal Audio, Inc.は、本書に含まれる誤り、または本資料の提供、性能、使用に関連して発生する直接的、間接的、特別、付随的、または結果的な損害について、一切の責任を負わないものとします。